

## 知恵袋（その12）

「路線を守り育てる」意識で、行政の枠を超えてバス活性化と持続性を確保する自発的な取り組み  
（愛知県新城市）

- ・ 厳しい条件の中、路線を維持していくためには、行政区の枠を超えて利用者、住民が参加する組織が必要であるとの意識のもと、地域住民を主体とした路線ごとに「路線を守り育てる会」が発足。
- ・ 「路線を守り育てる会」が、運行ルート、時間、回数などの新設・変更を協議。独自に利用促進のためのイベントや情報チラシの配布など自発的な取り組みを積極的に実施。



### 地域住民が主体となった「路線を守り育てる会」を発足

- ・ 新城市は人口約5万人の山間部を有している自治体であり成20年2月に策定された「新城市地域公共交通総合連携計画」では、“ひとつのバス路線に限定した行政区の枠を超えた利用者、住民が参加する組織が必要である”という結論から、『路線を守り育てる会』が発足。
- ・ 検討体制は、地域公共交通会議の下部組織として、各地域バス路線を協議する「地域部会」と、さらに「路線を守り育てる会」(実証運行の路線単位)が組織されている。
- ・ 「育てる会」のメンバーは、行政区の役員、小中学校の保護者、老人クラブ会員、主婦等の地域住民によって、公募を含め4～5名で構成。
- ・ 路線を創る、路線を守る、路線を育てるをコンセプトとして、地域ニーズに合わせた運行ルートの検討や、情報チラシ「かわら版」の発行、バスの利用促進イベントなど、自発的な取り組みを実施。

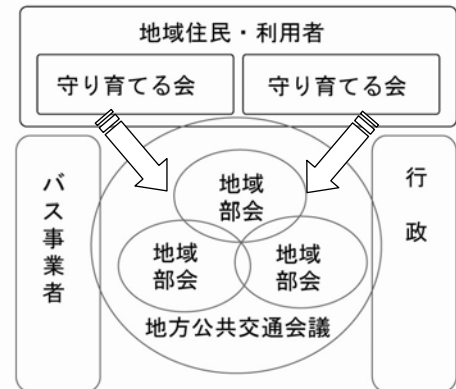


図3-18 地域公共交通会議の検討体制

（出典）新城市提供資料

### 「育てる会」の活動で利用者が増加

- ・ 特に、公募の会員が多く自主的な活動が盛んな「つくであしがる線」では、会の活動効果として利用者数が増加している。

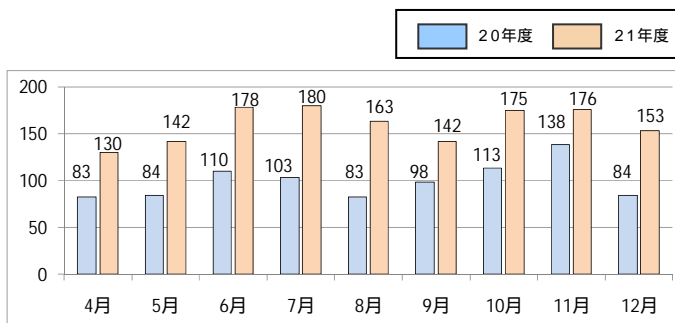


図3-19 つくであしがる線の利用者数

（出典）新城市提供資料



図3-20 つくでバスかわら版

（出典）新城市提供資料